

すばらしい「いやし」と不思議な「霊的」体験

横浜鶴見福音教会(協力教会) 前田実隆牧師



た。大変な一日でありました。
 次の日も点滴は続きました。6時間以上もかかったのには驚きました。
 三日目の1月11日は日曜日。主日礼拝後、今日も点滴。病院より帰宅すると、突然の電話。東京田端万民教会のチョン・ギョング牧師先生からでした。前に飯田万民教会のユ・スンギル牧師先生からGCN衛星放送の受信装置を送っていただいたのですが、チョン先生が昨年12月27日に設置して下さったのです。「最初のテレビ礼拝はいかがですか?」というお尋ねの電話でありました。



私の病気のことを知った先生は、早速、韓国の万民中央教会へお祈りの依頼をなされた様子。まもなく、再度のお電話。「今、イ・ジェロク先生が祈ってくださいます。先生のお祈りをお伝えします」と。イ・ジェロク先生の私のお祈りです。電話口で通訳して下さるチョン・ギョング先生のお祈りに、私も一緒に祈っていました。
 祈り終えて一瞬、どうしてこんなに早く連絡でき、お祈りいただいているのか、あまりの早さに驚いて、理解にとまどっていました。そのような時、大変な経験をいたしました。
 お祈りをいただきましてまもなく、春の心地良い暖かい日差しのような、明るい光が、腹部の中心から、静かに、ゆっくりゆっくり広がって、やがてからだ全体を覆って行き、その穏やかな光によって開かまるで霧が去って行くように去って行くのを見たのです。
 大変な驚きの光景です。表現がおかしいかもしれませんが、普通見るのと同じ目で見ますが、この時の体験は、からだ全体が目のように感じ、そのからだの目があの不思議な光景を見ていたのです。
 次に、これもまた表現できない「平安」がからだ全体を包み、まるで平安の家に住んでいるような気持ちでした。

次は、感謝があふれてきて、涙がとまりません。神の栄光を崇め賛美しました。賛美のなかで感じたことは、神の愛がからだ全体を内側から覆いつくしている姿でした。
 そのなかで、次は、キリストのあの十字架の贖いの血潮に対する感謝がいっぱいになり、また涙があふれ出ました。何が起きているのか。そんな臨在の恵みの中で、しばらく静かにひたっているという、不思議な「霊的」体験でありました。
 今一つ、イ・ジェロク先生が「空間を超えて……」とお祈りされたとき、これまた不思議な体験をいたしました。
 神が、神の次元の霊をもって、私に触れて下さったという、何とも言えない安どの喜びでした。その時、「いやされた」という信仰の確信が与えられたのです。
 次の日の採血検査の結果はすばらしいものでした。すべてが正常値となっていました。
 「いやし」と「霊的」体験のためには、イ・ジェロク先生始め、ソウル本教会の皆様のお祈りとお働き、日本にいらっしゃる万民教会の多くの先生方、聖徒の皆様のお働きあつてのことと深く感謝をいたし、心から主の聖名を崇め、お証しいたします。

2009年1月9日、金曜日の早朝、突然の腹痛におそわれ、あまりの急な出来事に自分でも何が起きたのか戸惑いました。
 「お祈りのハンカチ」(使徒9:10-11)を腹部に置いて祈っていましたが、あまりの激痛に気を失うこと何回か……。
 どのくらい時間が経過したのか、今が何時なのかもわからぬなか、救急車で病院へ運ばれました。予測診断では、大腸憩室症で、腸内腸壁の弱い部分に複数の孔があいている可能性を指摘され、いきなりまる裸。着せられたのは、あのいやなブルーの手術着。
 それからはどこへ運ばれるのか。ゴロゴロ。ゴロゴロ。ストレッチャーの車輪の響きが体に伝わって痛むのを、薄れる記憶のなかで耐えていました。
 CT検査、レントゲン検査……。次々検査されるなかで、いつのまにか気が失ったのか、眠ってしまったのか……。気が付くと、周りには医師や看護師の姿。いくつかの点滴の袋がぶらさがっているのが目にとまり、ちょっとびっくり。
 幸い、憩室の炎症だけで、孔のやぶれはないとのこと。あまりにも経過が良かったので、帰宅を許されました。

日本支教会の連絡先

- イエス・キリスト飯田万民教会**
 担任: 柳 承吉(ユ・スンギル)牧師
 崔 乘蘭(チェ・ビョンナン)伝道師
 山下 好美 牧師
 安達 真理子 伝道師
 イ・ハンヨン宣教師
 住所: 〒395-0807
 長野県飯田市鼎切石 3883-4
 連絡先: T) 0265-56-8286
 F) 0265-56-8287
 e-mail: imc@s9.dion.ne.jp
 ホームページ: http://iidamanmin.to.cx/
- 名古屋万民教会**
 担任: 時國 みや子 伝道師
 住所: 〒465-0014
 名古屋市中東区上管 1-916
 連絡先: T) 052-774-8874
 F) 052-774-8883
 e-mail: nago_mhc@maroon.plala.or.jp
- イエス・キリスト山形万民教会**
 担任: チョン・カンソプ牧師
 住所: 〒999-3716
 山形県東根市蟹沢 1486-4
 連絡先: T/F) 0237-43-0771
 e-mail: ymgjtks@gmail.com

- イエス・キリスト別府万民教会**
 担任: 加藤 勲 牧師
 住所: 〒874-0924
 大分県別府市餅ヶ浜町 4-41
 連絡先: T/F) 0977-23-8980
 e-mail: b.manmin@galaxy.ocn.ne.jp
- イエス・キリスト大阪万民教会**
 担任: キム・マルコ牧師
 キム・モニカ宣教師
 住所: 〒591-8023
 大阪府堺市中百舌鳥町 5-775-15
 連絡先: T/F) 072-220-5289
 e-mail: osmanmin@hotmail.com
 ホームページ: www.eonet.ne.jp/osakamanmin
- イエス・キリスト旭川万民教会**
 担任: 小松 幹 伝道師
 住所: 〒071-8144
 北海道旭川市春光台4条 3丁目 11-23
 連絡先: T/F) 0166-53-0652
 e-mail: asa-mhc@hokkaido.email.ne.jp
- イエス・キリスト東京田端万民教会**
 担任: チョン・ギョング牧師
 ソン・アミ宣教師
 住所: 〒114-1102
 東京都北区田端新町 2-25-3
 連絡先: T) 03-3809-3326
 e-mail: manjeong17@yahoo.co.jp
 ホームページ: http://tabata.manmin.or.kr/

- イエス・キリスト川崎万民教会**
 担任: 平良エリカ 伝道師
 住所: 〒210-0818
 神奈川県川崎市川崎区中瀬2丁目 12-8 グリーンヴァレ 301号室
 連絡先: T) 044-277-0178
- イエス・キリスト松本万民教会**
 担任: 伊藤 正明 牧師
 伊藤 時子 伝道師
 住所: 〒399-0033 長野県松本市笹賀 4343
 連絡先: T) 0263-57-0003
 F) 0263-57-0015
 e-mail: mmcito4343@nifty.com
- イエス・キリスト舞鶴万民教会**
 担任: キム・マルコ牧師
 キム・モニカ宣教師
 住所: 〒624-0913
 京都府舞鶴市宇上安久 138
 連絡先: T) 0773-75-5656
 F) 0773-77-7888
 e-mail: osmanmin@hotmail.com
- 岡山万民教会**
 担任: 時國 裕博 牧師
 住所: 〒701-2155 岡山市中原460
 連絡先: T) 086-275-7276
 e-mail: oky_777@blue.plala.or.jp

- イエス・キリスト八千代万民教会**
 担任: 青木 久尚 牧師
 住所: 〒276-0045
 千葉県八千代市大和田 670
 連絡先: T/F) 047-483-3587
 e-mail: hisanao@kyi.biglobe.ne.jp
- イエス・キリスト鉢田万民教会**
 代表: 飯塚 優
 住所: 〒311-2102
 茨城県鉢田市台湾沢1080-6
 連絡先: 0) 0291-39-9177
 e-mail: surf9snow9@yahoo.co.jp
- イエス・キリスト東京万民教会(東京万民宣教センター)**
 担任: 崔 乘蘭(チェ・ビョンナン)伝道師
 リュ・ウンギョン伝道師
 住所: 〒160-0004
 東京都新宿区四谷一丁目8-8
 佐伯千成ビル5-B
 連絡先: T/F) 03-3356-9830
 e-mail: imc@s9.dion.ne.jp
- 横浜鶴見福音教会(協力)**
 担任: 前田 実隆 牧師
 住所: 〒230-0047
 神奈川県横浜市鶴見区下野台町 3-104-4
 連絡先: T) 045-521-5843

編集発行: 万民中央教会・発行人: イ・ジェロク・編集者: ビン・グンソン
 〒152-879 韓国ソウル市九老区九老洞851番地・電話: 82-2-818-7042・Fax: 82-2-818-7048・www.manmin.org

「起きよ。光を放て。」
 (イザヤ 60:1)

万民中央ニュース

民族福音化と世界宣教の使命を持つ万民中央教会
 わたしたちは、聖書の教えと正統的キリスト教の信仰に立ち、新興宗教団体であるエホバの証人・モルモン教・統一教会とはいっさい関係ありません。

第70号 2009. 2. 22.

「主よ、ここに、私がおります。私を遣わしてください。」 連合聖潔神学校 第17回卒業式



連合聖潔神学校の第17回卒業式が2月5日午前11時、本教会の本聖殿で行われた。教務長イ・ジョンウオン牧師の司会で進められた卒業式は、理事イ・ジョンホ長老の祈りの後、理事長イ・ジェロク牧師が「霊」(第一ヨハネ1:5)というメッセージを伝えた。
 イ・ジェロク牧師は「神の働き人は霊の心を耕さなければならぬ」と前置きした後、霊の心を耕すためには「第一、行ないで犯す罪である肉の行ない(ガラテヤ5:19-21)を捨てるべき、第二、心と思いで犯す罪である肉の行ないを捨てるべき、第三、火のように祈るべきです」と伝えた。
 続いて学事報告、卒業証書授与、賞牌授与、記念品贈呈、訓示、祝辞、答辞、祝詞があった。日本関係ではキム・モニカ宣教師(大阪万民教会)と、パク・ヨハンナ宣教師が神学科課程(通信)を修了した。
 イエス・キリスト連合聖潔神学校の神学教育機関である連合聖潔神学校は1992年3月25日、開校礼拝をささげた後、聖潔の五重福音(新生、聖潔、神癒、復活、再臨)を根幹として、みことばと祈りで武装した主のしもべと宣教師など、神の働き人の輩出に努めている。同教団には外国人を対象とした国際神学校(MIS)もあり、全世界にキャンパスが開校されている。

健康なクリスチャン

「謙遜と仕え」はクリスチャンが備えるべき資質です。「しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。」(第一コリント12:20)のみことばは、これをさらに強調しています。もし、目が自分が最高だと言って口を侮って、手が足を侮るなど、各器官が互いに侮るならどうなるでしょうか? からだは一時も休まらないし、自分の役目が果たせないので、自分の役目が他の人の役目より優れているとは言えません。すべての器官が自らの機能を果たす時、からだは健康であるように、謙遜と仕えによって健康なクリスチャンになれるのです。(第一コリント12:12-26)

文/イ・ジェロク牧師
 韓国経済新聞に連載中の「いのちの水の川」より

道 Column 願いを叶えよう

新年になると、ほとんどが大きな夢を持って、多方面で計画して企画しますが、完全に実行できる人は多くないのがわかります。しかし、全能の神様にあつてはどんなことでもできるので、夢を叶えてまことにすぐれた人、幸いな人になります。聖書に出てくる数多くの昔の信仰の人々と、夢を叶えた信仰の人々の共通点は、神様を完全に信じて命令を守り、行なったということです。変わらない信仰と行ないで心の願いを叶える、祝福された新年になりますように。

「主があなたの願いどおりにしてくださいますように。あなたのすべてのはかりごとを遂げさせてくださいますように。」(詩20:4)

文/イ・ジェロク牧師
 東亜日報に連載中の「シロアム」より

Manmin Central Church
 website: www.manmin.org
 Tel: 82-2-818-7042, 7063
 Fax: 82-2-818-7048
 e-mail: ksy8187042@yahoo.co.jp

MANMIN TV
 website: www.manmintv.org
 Tel: 82-2-824-7107
 Fax: 82-2-813-7107
 e-mail: info@manmintv.org

WCDN World Christian Doctors Network
 Website: www.wcdn.org
 Tel: 82-2-818-7010
 Fax: 82-2-851-3846
 e-mail: hwang 1923 @empal.com

日本各支教会(4 連絡先参照)



堂会長イ・ジェロク牧師

今回は、五段階の信仰のうち、信仰の二段階について調べます。

1. みことばどおり行なおうと努力する信仰の二段階

前に、信仰の一段階とは、救われるための信仰であり、聖霊を受けるための信仰だと言いました。すなわち、イエス・キリストを救い主として受け入れ、聖霊を受けたので天国のいのちの書に名が記されて、神の子とも認められた状態です。

聖霊を受ければ、心に救いの確信と罪の赦しの恵みで心が軽くなって、喜びと幸せが満ちるだけでなく、異言のような御霊の賜物を受けたり、賛美が絶えることなく、教会に来るのがとても楽しくなります。一方、信仰が成長しないで停滞している時は、聖霊がうめかれるので、満たされなくなって悩むようになります。ですから、喜びを失わないためには、信仰の一段階にとどまらず、二段階、三段階へと成長し続けなければならないのです。

それでは、信仰の二段階とはどんな信仰でしょうか？ それは「行なおうと努力する信仰」です。信仰の一段階は救いの喜びで満たされていますが、みことばどおり生きるのではないので、酒、タバコやめられなかったり、憤って嘘をついたりなど、以前の生活をそのままします。しかし、礼拝と各種の集まりでますますみことばを学んで、自分の生き方を変えなければならぬと悟ります。

「安息日を聖なる日とせよ、完全な十分の一献金をしなさい、祈りなさい、愛しなさい、仕えなさい、平和をつくりなさい、さばいて罪に定めはならない、姦淫してはならない、相手の益を求めなさい」など、このようなみことばによって「私も変えられて、学んだみことばどおり生きなければならない」と思うようになります。この時、各人の心におられる聖霊がみことばを思い出させてくださって、真理の中を歩めるように助けてくださいます。

ローマ人への手紙8:26に「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないので、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいませ。」とあります。神の子どもたちがみことばどおり生きない時は、聖霊がうめかれるので、悩むようになります。しかし、みことばに聞き従って真理の中を歩む時は、聖霊が喜ばれるので、心に平安と幸せが臨んで、聖霊に満されるようになります。このように聖霊が働かれると、罪と悪を悟って、みことばどおり行なえる力を受けていくのです。

信仰の一段階にいる人は、罪を犯しても、あまり心が悩んでいると感じません。みことばがよくわからないので、真理と真理に逆ら

うものが何かも悟れなくて、罪を犯しながらも罪とわからないので、聖霊のうめきも聞けないのです。けれど、二段階に入れば、みことばを知りながらも相変わらず罪と悪の中を歩む時は、聖霊がうめかれるのを感じるので、心が悩んで聖霊に満たされなくなります。たとえば、赤ちゃんは裸になっ

たとえ、赤ちゃんは裸になっ

2. 信仰の二段階から信仰の三段階に成長するには

信仰の二段階は「行なおうと努力する信仰」だと言いました。<ヤコブの手紙2:26>に「たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。」とあるように、みことばを聞いて知ったのですから、信仰があるならば、そのとおり行なおうと努力しなければなりません。

しかし、まだすべてのことに真理を追って行なえるのではないし、行なおうと熱心に努力はしますが、真理のとおり行なう時もあり、行なわない場合もあります。たとえば、安息日を完全に守って、絶えず祈ろうと努力はしますが、忙しになったら主日が守れなかったり、祈りを休んだりもします。試みにあえば感謝できなくて、口からつぶやきが出たり、平和をつくりたいと願うけれど、憤って争ったりします。

このような時も、気を落としたりあきらめたりせず、信じて努力していけば、たとえ完全ではなくても、神様はその姿を見て、救われる信仰があると認められるのです。また、祈って神様の力を求めて、みことばどおり行なおうと努力するなら、10回罪を犯したところが9回、8回となり、ますます減って2回、1回りなしてくださいませ。」とあります。神の子どもたちがみことばどおり生きない時は、聖霊がうめかれるので、悩むようになります。しかし、みことばに聞き従って真理の中を歩む時は、聖霊が喜ばれるので、心に平安と幸せが臨んで、聖霊に満されるようになります。このように聖霊が働かれると、罪と悪を悟って、みことばどおり行なえる力を受けていくのです。

信仰の二段階にいる人は、信仰生活が難しいと感じることもあります。知識的にはみことばを知って、罪と義とさばきについて学びましたが、心では相変わらず世が良く、真理に逆らうことを行ないたいので、以前の生活を捨てるのがやさしくないのです。

それで「信仰生活がづらい」と言ったり、苦しくて聖霊に満されなくなると、信仰生活

信仰の量り(6)

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がりはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」(ローマ12:3)

をい、加減にするか、楽に信仰生活をしようとして罪を指摘しない教会を探したりします。こういう姿で、どうして「私は本当に信仰がある」と言えるでしょうか？ 信仰の一段階から二段階に進んだので、三段階に向かって行くべきなのに、一段階の信仰へ後戻りしているのです。

敵である悪魔・サタンはこのような人からし種ほどの信仰まで奪います。それで、肉の思いに働きかけて、疑いを植えつけて、受けた恵みを奪って、世を追い求めるように惑わします。結局、神様の恵みが落ちて、聖霊に満されなくなると信仰が冷めると、教会に行ったり来たりだけしているうちに、御霊が消えてしまい、救われることさえできなくなります。

それで、<ペテロの手紙第一5:8>に「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのようになり、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」とあり、<テサロニケ人への手紙第一5:19>には「御霊を消してはなりません。」とあるのです。本当に信仰があるなら、罪を捨てることがどんなに難しく感じられても、その過程を勝ち進まなければなりません。この道だけが祝福の道、天国へ行く道なので、敵である悪魔と戦って勝ち、みことばどおり行なわなければならないのです。

まことに神様を愛して、天国を望むなら、決して真理の中を歩むことが難しくありません。たとえば、ものすごい宝物を隠しておいて、「1か月歩いて宝物が隠されている所まで行けば、それがすべて持てる」と言ったら、皆さんはいくら険しい道でも、不平を言わないで喜んで歩いて行くでしょう。また、世の人も、愛する人が願うことならば、いくら難しいことでも喜んでしてあげようと思います。

まして私たちに下さった戒めは、愛の神様がよきならば天国を下さって、霊肉ともに祝福しようとして命じられたことですから、これに聞き従うことがどうして難しいのでしょうか？ 本当に神様を愛して天国を望むなら、みことばに聞き従うことが難しくないし、聞いて学んだとおり守り行なうので、すみやかに三段階の信仰に至れます。

私もやはり、神様との出会いが熱かったのです。そしてみことばどおり行なうことが全く難しくありませんでした。あまりにも神様と主イエス様とがすばりかかったので、みことばを知ると熱心に聖書を読んで、こまめに礼拝とリバイバル聖会を訪ね歩きながら、みことばを聞ききました。ほとんどのみことばはすぐ聞き従えたいし、心にある罪の性質そのものを捨てるためには、もう少し時間がかりかかります。したがって、神様を愛するので、それらを捨てるとも長い歳月かかりませんでした。ですから、信仰の一段階はもちろん、三段階もすみやかに経て、四段階に入りました。

皆さんも、このように神様が嫌われるなら、その場で捨てて、神様が喜ばれることならそ

の時心に決めて、変わらず行なっていけば、すみやかに信仰の二段階を経て三段階に入れるのです。

3. 聖徒を訪問する時は相手の信仰に合わせるべき

主のしもべや働き人は信仰の一段階の聖徒にいつも気を配って、訪問しなければなりません。ところが、疑いを植えつけて、受けた恵みを奪って、世を追い求めるように惑わします。結局、神様の恵みが落ちて、聖霊に満されなくなると信仰が冷めると、教会に行ったり来たりだけしているうちに、御霊が消えてしまい、救われることさえできなくなります。

それで、<ペテロの手紙第一5:8>に「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのようになり、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」とあり、<テサロニケ人への手紙第一5:19>には「御霊を消してはなりません。」とあるのです。本当に信仰があるなら、罪を捨てることがどんなに難しく感じられても、その過程を勝ち進まなければなりません。この道だけが祝福の道、天国へ行く道なので、敵である悪魔と戦って勝ち、みことばどおり行なわなければならないのです。

まことに神様を愛して、天国を望むなら、決して真理の中を歩むことが難しくありません。たとえば、ものすごい宝物を隠しておいて、「1か月歩いて宝物が隠されている所まで行けば、それがすべて持てる」と言ったら、皆さんはいくら険しい道でも、不平を言わないで喜んで歩いて行くでしょう。また、世の人も、愛する人が願うことならば、いくら難しいことでも喜んでしてあげようと思います。

まして私たちに下さった戒めは、愛の神様がよきならば天国を下さって、霊肉ともに祝福しようとして命じられたことですから、これに聞き従うことがどうして難しいのでしょうか？ 本当に神様を愛して天国を望むなら、みことばに聞き従うことが難しくないし、聞いて学んだとおり守り行なうので、すみやかに三段階の信仰に至れます。

私もやはり、神様との出会いが熱かったのです。そしてみことばどおり行なうことが全く難しくありませんでした。あまりにも神様と主イエス様とがすばりかかったので、みことばを知ると熱心に聖書を読んで、こまめに礼拝とリバイバル聖会を訪ね歩きながら、みことばを聞ききました。ほとんどのみことばはすぐ聞き従えたいし、心にある罪の性質そのものを捨てるためには、もう少し時間がかりかかります。したがって、神様を愛するので、それらを捨てるとも長い歳月かかりませんでした。ですから、信仰の一段階はもちろん、三段階もすみやかに経て、四段階に入りました。

皆さんも、このように神様が嫌われるなら、その場で捨てて、神様が喜ばれることならそ

の時心に決めて、変わらず行なっていけば、すみやかに信仰の二段階を経て三段階に入れるのです。



ケニア・ナイロビ

神様を愛するブルンジの大統領 彼の心を感動させた聖潔の福音



ブルンジの大統領と「地域開発運動」に参加したチョン・ミョンホ牧師



ブルンジの大統領にマンミンの働きを紹介

ケニアのナイロビ万民聖潔教会のチョン・ミョンホ牧師が2008年12月26日から31日まで、ブルンジ共和国ブジュンブラ宣教を恵みのうちに終えた。高級公務員と政治家など約700人が参加した12月28日の主日セミナーでは「創造主の神とイエス・キリスト」というメッセージを伝え、同日午後、約4万人が集まった大集会では「深みに網をおろしなさい」というメッセージと、堂会長イ・ジェロク牧師に現れる神の力を伝えた。

この集会は、27日(土)ブルンジ大統領が「地域開発運動」に参加したチョン・ミョンホ牧師に感動して、予定になかった大集会の説教を依頼したので実現した。「地域開発運動」とは、長官、国会議員、市長、軍警および教会者など各界の要人と市民が参加して、地域を回りながら学校を建て、木を植えるなど、地域開発に努める大統領の特別プロジェクトである。

チョン・ミョンホ牧師は「小学校の建物を建てる現場に行き、政治家、軍警、市民と一緒に列を作ってレンガ運びました。遅れて到着した大統領も、一時間以上補佐官たちと一緒に賛美をしながらレンガ運びました。それから次の場所に移動して、実なる木を植えました。大統領と全国民が内戦による困難をともに克服していく姿を見て、大いに感動しました。今回の宣教日程は、ブルンジの大統領が神様を非常に愛しているの、神様が堂会長イ・ジェロク牧師とマンミンの働きを知るようにしてくださったようです」と述べた。

数日後、大統領執務室に招かれた同牧師は、万民中央教会の神の力ある働きと聖書の意義、ムアンの甘い水などについて詳しく紹介した。大統領はもっと多くを知りたいと、今年開催される大集会にイ・ジェロク牧師を招待した。

大統領は就任前、内戦のためジャングルで隠遁生活をしているうちに子どもたちを亡くし、自分は病気がかかったが、神様の恵みによって生き残った。その後2005年8月、圧倒的な支持で大統領になり、全国民が主イエスを受け入れてほしいと願って、1年に2回大集会を開いている。

ドイツ・ベルリン

妻に応急処置したムアの甘い水

ドイツ・ベルリンのオヘネバ・ジョー聖徒は、ムアの甘い水で命が危なかった妻を救った。彼の妻は、昨年5月14日、病床にある父親に会うために祖国ガーナに行く前日、家族へのお土産を買うのに忙しい一日を送った。家に帰った妻は、疲れて夜12時頃床についた。空港に到着する予定は朝の6時だった。

ところが夜2時頃、妻はひどい痛みを覚えて呼吸困難を訴えた。状況は一瞬、非常に深刻になった。医師を呼んで夫婦は待った。30分ほど経っても医師は来なかった。再び電話をかけて、状況が深刻で緊急措置が必要だと告げた。しかし、医師に事情があって、すぐは来れないと

信仰によって聖書に記されたみわざを体験する人々がいる。世界のあちこちで信仰と答へのみわざによって神様が生きておられることを証しする世界の「マンミン」の顔に会ってみよう。(編集者)

いうことだった。彼女は死にかけていて、目と顔が真っ青になっていた。その時、ムアの甘い水が彼の脳裏をかすめた。ホーリーゴットテレビで本教会を知り、ムアの甘い水(出エジプト15章)を送ってもらい、つけた後に皮膚病が完全にいやされた経験のある彼は、万一の時にために、ムアの甘い水を少し残しておいたのである。

急いでムアの甘い水をコップに注いで、イエス・キリストの御名によって祈った後、妻に飲ませた。数分後、妻は眠りにつき、呼吸も正常になった。朝、妻は元気に飛行機に乗れた。今でもしごく健康である。

インド・チェンナイ

ハンカチの祈りで健康な息子を出産

家族全員がイスラム教徒で、看護師のニシャ聖徒は、からだ小さく、長男サムを出産する時は1か月間入院して臨月を迎えた。難産の末、2.75キロの赤ちゃんを産んだが、しばらくは保育器で育てなければならなかった。病弱なサムを育てながら苦勞した彼女は、チェンナイ万民教会に出席しているうちに子ども健康が回復し、家族が福音化された。

また、2回目の妊娠4か月の時、妊娠糖尿病があったが、GCN放送で堂会長イ・ジェロク牧師の祈りを受けていやされた。妊娠中もチェンナイ万民教会の区域長、聖歌隊、礼拝案内および各種の奉仕に献身しながら、礼拝と祈りを一度も休まなかった。夫のアントニー聖徒も妻を助けて、オートリキシャ(三輪タクシー)で家の近くの聖徒を教会に乗せて、忠実に奉仕してきた。

しかし、昨年11月24日、妊娠9か月の時、早産気味で病院に入院した。超音波と各種の検査の後、医師は思いもしなかったことを伝えた。羊水が足りないし、赤



さんが2.25キロで小さすぎるので、手術で出産しても生きる確率が50パーセントで、生きても保育器に入らなければならないということだった。

しかし、彼女は出産1週間前の17日、チェンナイ万民教会創立4周年記念「イ・ミギオン牧師招へいハンカチ集会」の時、安産のためのハンカチの祈り(使徒19:11-12)を受けたので、安産だと夫とともに信じていた。

25日、手術の直前、彼女はチェンナイ万民教会の担任、ハン・ジョンヒ宣教師のハンカチの祈りを受けた。手術の結果は担当医師を驚かせた。50パーセントしか生きる可能性がなかった赤ちゃんはとて元気で、保育器に入らなくてもよかったです。

彼女と赤ちゃんは数日後、元気に退院した。